

川内原発再稼働

2014年7月16日 原子力規制委は川内原発が事実上審査に合格した、という審査書案を了承しました。翌日の新聞各紙の社説タイトルは。。

産経新聞

川内再稼働
早期実現でリスク減凶れ

「安全性は、福島事故を教訓とした厳格な新規制基準を満たす水準に達していると原子力規制委員会によって判定された。」

「再稼働への扉が開かれようとしていることについては歓迎したい」

読売新聞

川内原発「合格」
再稼働への課題をこなそう

「川内原発は、再稼働の前提となる安全審査に、事実上合格したことになる。」

「原子力発電所の再稼働に向けて前進したが、実現への課題も多い。」

日経新聞

川内再稼働へ
国は避難計画で責任果たせ

「安全審査について、事実上の合格とする「審査書案」を了承した」

「原子力発電所の「稼働ゼロ」の解消へ前進といえるが、再稼働にはなお多くの課題が残っている。」

毎日新聞

「基準は守るべき最低ラインであり、電力会社は事故リスクを自ら減らす努力を重ねていく必要がある。」

「原発を動かすことと動かさないこととのリスクを、具体的に国民に説明する責任がある。再稼働への理解を求めるのはその後だ。」

川内原発再稼働へ
教訓学ばぬ見切り発車

朝日新聞

「本質的に重要なのは、新基準への適合は決して「安全宣言」ではないということだ。」

「放射性廃棄物の処分問題も含め、広く深い論議を抜きに原発再稼働を進めてはならない。」

原発再稼働を問う
無謀な回帰に反対する

東京新聞

「政府が繰り返し言う「世界一厳しい基準」にこそ、根拠はない。」

「安倍政権は、その独立性を盾に取り、規制委の審査に通ったものは安全という、新たな原発神話の構築に向かい始めたようにすら見える。」

「なし崩しの再稼働は、かえって国民の不信を深めるのではないだろうか。」

川内原発・審査「適合」
ゼロの目標はどこへ

規制委員会が責任を持って「安全」かどうかということ
をチェックするわけですから、その判断にゆだねるということ
であります。

基準の適合性は見えていますけれども、「安全」だということ
は私は申し上げませんということをいつも、国会でも何で
も、何回も答えてきたところです。

菅官房長官の発言（↑上に引用）との違いをどう受け止めているか？という問いに対して

政治家は政治家の発言がありますので、私から何か申し上げるこ
とではないと思っています。私どもは、ゼロリスクということはいつ
も申し上げられないから、「安全」というとゼロリスクと
誤解されるので、そういうことを申し上げていますが、
けれども、政治的にはわかりやすい意味で「安全」だということ
をおっしゃったのかも知れませんが、これは政治家と私の発言
とが同じであることは多分ないと思います。

世界でも最も厳しい安全基準に則ってですね、規制委員会
が科学的、技術的にしっかりと審査をし、その上においてですね、
それが「安全」だと、こういう結論が出ればですね、立地
自治体のみなさんのご理解を頂きながら、再稼働を進めてい
きたいと考えています。

私の感想

一度、菅官房長官、田中委員長、安倍首相の3人に並んで会見してもらいたいですね。
そもそも「安全」って何なのでしょう？3人の「安全」の定義も聞いてみたいです。

↓例えば、普段の生活でも、不安を許容範囲におさめる為に保険に入ったりしているのだと思います。

例えば、「安全」を「想像される不安が許容範囲内であること」と考えると。。

今回、規制基準に適合したことで言えるのは

「現時点で想像できる範囲での技術的対策は取ってあります。」という程度でしょう。

- ・万一のときの避難方法やその後の補償

- ・将来に残る廃棄物の後始末（私たちの子孫の生活に強く関わります）

などなどの不安については規制委員会は何も言っておらず、その不安は許容範囲を超えています。

そこを見るのは政治家の役目のはずですが、今の政治家はその役目を放棄しているようです。

<参考資料>

①首相官邸HP 官房長官記者会見 平成26年7月16日午前（動画3:15あたり）

http://www.kantei.go.jp/jp/tyoukanpress/201407/16_a.html

②原子力規制委員会 委員長定例会見 平成26年7月16日速記録

<http://www.nsr.go.jp/kaiken/index.html#pre>

③政府インターネットテレビ 安倍首相宮城県下訪問 平成26年7月16日（動画42:30あたり）

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg10137.html>